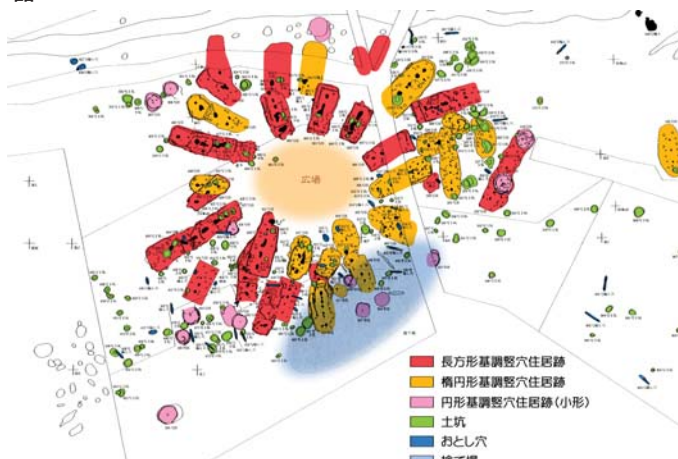




「環状集落」を上空から撮影

調査により出土した土器



【遺構配置図】広場を中心に放射状に住居が配置されている

遺跡付近がダム工事区域であるため、遺跡の一般公開は、ダム工事終了後の平成25年度以降となりますが、本年度中に現地説明会を行う予定です。日程が決まり次第、広報おしゅうなどでお知らせします。

■問い合わせ 市教育委員会事務局歴史遺産課（江刺総合支所内線444）

胆沢区若柳<sup>けいぞん</sup>字慶存<sup>けいぞん</sup>地内の「大清水上遺跡」（縄文時代前期後葉、約5000年前ころ）が7月28日、国の史跡に指定されました。

この遺跡は、大型竪穴住居のみからなる環状集落遺跡で、岩手県内のみならず東日本の環状集落の形成過程を探る上で極めて重要な遺跡です。

市内では、胆沢城跡、高野長英旧宅、角塚古墳、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡に次いで、6番目の国指定史跡となります。

大清水上遺跡は、付近に建設が進められている胆沢ダム工事に関わり、平成12年から16年まで岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。その結果、土器や石器とともに、大型住居が放射状に配置される「環状集落」が見つかりました。

集落は、直径約20mの中央広

場を中心に大型竪穴住居が、美しい「環」を描いています。住居は頻繁に建て替えや拡張が行われた跡があり、この場所が数世代にわたって定住生活が続けられていたことがわかります。

また遺跡は、背後にそびえる横岳・焼石岳の風景や広大な落葉広葉樹の森など、5000年前と変わらぬ豊かな自然環境も特徴の一つです。市は今後、そういった魅力を生かした「自然と共生し、森や川などの恵みにより暮らしの縄文集落」の復元に向け、具体的な整備活用計画の検討を進めていきます。

【胆沢区若柳】縄文時代前期の大規模環状集落

## 大清水上遺跡が国指定史跡に